

令和4年度 大田区立矢口中学校 学校経営計画

校長 大原 章 博

1 学校教育目標

人間尊重の精神を教育の基調におき、人間性豊かで、民主的な社会を担うことのできる人間を育成するために、次の目標を定める。

気づき、考え、行動できる生徒を育てる。

○学ぶ人 ○思いやる人 ○鍛える人 ○はばたく人

教育目標は、生徒一人一人が将来社会人として、こういう人になってほしいと願い、日々の教育活動を推し進めていくうえでの目標であるとともに、保護者、地域に本校の教育はこういう社会人を育てますと約束することである。本校の教育目標を具現化していくために、**おおた教育ビジョン**にあるように「豊かな人間性をはぐくみ、未来を創る力を育てる」を念頭におき、「生徒が毎日通いたくなる学校」「何かを得ることのできる学校」を目指していく。

2 学校経営の基本的な考え

信頼関係の構築…生徒－生徒、生徒－教職員、教職員－教職員、教職員－保護者、教職員－地域
＜目指す学校像＞

- (1) 向上心あふれる学校・目標をもって何事にも取り組むことのできる学校
- (2) 安全で安心できる学校…基本的生活習慣の確立と落ち着いた学習環境のある学校
- (3) 規律と活気のある学校…**生徒が自主的に活動し、自立や成長することのできる学校**
- (4) 誇れる学校…地域・保護者から信頼され、教職員・生徒も自慢できる学校

＜支える教師像＞

- (1) 生徒との時間を大切にする教師
 - ・生徒の変化に敏感であり、危機意識をもって生徒と接することができる。
 - ・生徒と向き合い生徒の気持ちになって考えることもできる。
 - ・生徒の可能性を引き出すことができる。
- (2) 自らを磨くことのできる教師
 - ・知識や技能を磨く研修意欲があり、自ら進歩しようとする。
 - ・専門的な知識と実践的な指導力をもっている。
- (3) 互いに高めあう教師
 - ・全体の奉仕者としての使命と自覚をもっている。
 - ・組織人としての責任を果たし、協調性がある。
 - ・学校経営への参加意欲があり、誠実さをもって何事にも対応する。

＜期待する生徒像＞

何をするにもよく考え、継続して努力し、自分を抑制し、正しい判断力をもつ生徒

※ そのために必要な3つのC *consider continue control* そして4つめのC *choose*

※ 1年「見る学年」2年「見られる学年」3年「見せる学年」としての意識
そして「魅せる学年」として卒業を

- (1) 自ら学ぶ生徒…目標を設定し進んで学び、知識習得や技能習得に取り組む生徒
- (2) 他を思いやる生徒…人の気持ちを考えてどうしたらよいか考えられる生徒
- (3) 自分を鍛える生徒…命を大切にし、心身ともに健康であろうとする生徒
- (4) 未来にはばたく生徒…正しい判断ができ、夢をもって主体的に行動できる生徒

3 中期的目標（おおた教育ビジョン）と方策

(1) プラン1 未来社会を創造的に生きる生徒の育成

コミュニケーション能力、情報活用能力、ともに生きる力等、これからの社会の変化にしなやかに対応する生徒の力と自信を身につける。

- ・「主体的・対話的で深い学び」につながる活動を含んだ授業の推進とともに国語教育・外国語教育・科学教育・数学教育の充実
- ・ICT機器・タブレットを利用した授業の展開
- ・人権教育・国際理解教育の推進
- ・健康教育・食育の推進

(2) プラン2 学力の向上

生徒一人ひとりの学ぶ意欲を高め確かな学力の定着をさせる。

- ・大田区学習効果測定の実施と分析と授業改善プラン作成
- ・習熟度別少人数学習の実施
- ・学習指導講師等による補習教室
- ・教育研究推進校での実践的研究の活用

(3) プラン3 豊かな心の育成

生徒一人ひとりの健全な正義感や自己肯定感、自己有用感を高めるとともに、自他の生命を尊重する心を育成する等、未来への希望に満ちた豊かな心を育む。

- ・「特別な教科道德」を中心とした道德教育の充実
- ・移動教室を通じた体験活動の実施
- ・集団活動など特別活動、社会体験活動の充実
- ・ボランティア活動の意義と推進
- ・幼保小中一貫した心の教育の充実

(4) プラン4 体力の向上と健康の増進

スポーツに親しむ心の育成や、運動習慣の定着による体力の向上等、生涯にわたって健康増進を図る意識の向上を図る。

- ・体力調査結果の分析による体育の授業改善
- ・体育指導の充実
- ・体力向上プログラムによる体力向上
- ・基本的な生活習慣の確立

(5) プラン5 魅力ある教育環境づくり

生徒が安全・安心に学校生活を送るために、教員の指導力向上と良質な教育環境をつくる。

- ・授業改善セミナーへの**参加と活用**
- ・いじめ防止対策の充実と**保護者・地域への周知**
- ・副校長アシスタント、部活動指導員、校外指導員、読書学習司書等の配備と活用
- ・不登校対策の充実と未然防止
- ・トイレの洋式化
- ・学校特別支援員の配備

(6) プラン6 学校・家庭・地域が一体となってともにすすめる教育

学校・家庭・地域が担う役割などを明確にし、地域に開かれた教育の実現を目指す。また、相互の連携を深め、生徒を育てる仕組みをつくる。

- ・地域教育連絡協議会の発展（学校運営協議会設置の検討）
- ・学校地域支援本部（**スクールサポート**）の発展・充実
- ・PTA活動と連携した家庭教育支援
- ・教育相談体制の充実
- ・地域行事への参加
- ・図書館のICT化の推進

4 今年度の重点（短期経営目標と方策）

○「目的を意識した教育活動」

○「不登校生徒対策」

○「生徒の主体的活動の重視」

スローガン

「1年『見る』・2年『見られる』・3年『見せる』、そして『魅せる』に」

- ◎ 「おおた教育ビジョン」が策定され、それにのっとった教育活動を展開していく。
- ◎ よき伝統は踏襲しながら、中学校三年間を見通した生徒の成長を促進する学校経営を展開する。
- ◎ 学校・保護者・地域が信頼関係のもと一体となって、「生徒のために」「生徒にどんな力をつけたいのか」「最も良いことは何か」を考え、目的意識をもって教育活動を展開する。
- ◎ 卒業期に胸を張って本校の卒業生であることを自他ともに誇りに思える生徒を育成する

(1) 今年度の重点目標と目標達成のための具体的方策

<教科>

- ① 新指導要領に基づく年間指導計画と評価基準による授業の実践
- ② 生徒が主体的・対話的に取り組み深い学びを得る授業（グループ学習等の充実）
- ③ 基礎・基本の定着とわかる授業の展開（教師の授業力向上）
- ④ 各学力調査の分析と授業改善推進プランの策定と実践
- ⑤ 補習授業やぐんぐん教室の必要な生徒が補習教室に参加する取り組み
- ⑥ ICT機器を活用した授業展開と一人一台のタブレットの活用
- ⑦ 数学・英語における東京ガイドラインや区の方針にそった習熟度別少人数授業の展開
- ⑧ 体育を中心とした小中連携での体力向上プログラムの実践と体力調査を分析したうえでの**体育授業改善**
- ⑨ 学力向上の取り組みとしてのコンテストの実施と各教科におけるコンテストの実施と分析（漢字、暗唱、計算、スペリング、都道府県県庁所在地、化学記号等）
- ⑩ 全教科を通じての家庭学習の定着と家庭への啓蒙（学年としての取り組みとタブレットの活用）

<道徳>

- ① 道徳教育推進教師を中心として年間指導計画に基づいた道徳教育の推進
- ② 教科としての道徳の実践と確実な評価
- ③ 人権教育、生命尊重教育の充実
- ④ 全教育活動を通じての自己肯定感の向上

<特別活動>

- ① 生徒の居場所づくり
- ② 集団活動を通じての豊かな人間関係の構築
- ③ QU調査の分析と活用
- ④ 学校行事等を通じた生徒の主体的活動の場の提供
- ⑤ 学校行事や生徒会活動を通じた自己有用感、達成感の経験
- ⑤ 地域活動への参加とボランティア活動の意義と推進

<総合的な学習の時間>

- ① 体験学習の充実
- ② 学び方や考え方を身につけ、課題解決や探究活動に主体的に取り組む態度の育成
- ③ 他文化共生・国際理解教育の充実
- ④ 特別支援学級との交流
- ⑤ オリンピック・パラリンピック教育の充実
- ⑥ 読書力向上のための一校一取組の実施

<生活指導>

- ① 基本的な生活習慣の定着
- ② 攻めの生活指導…問題行動の未然防止のための指導（規範意識向上プログラムの活用）
- ③ いじめ・差別・暴力を許さない自他を尊重する態度の育成
- ④ 防犯・防災教育を含む安全指導の充実
- ⑤ スクールカウンセラー等の活用による不登校の未然防止と解消のための支援体制の確立
- ⑥ 不登校対策のための諸機関との連携強化、ケース会議の充実と保護者対応
- ⑦ 特別支援教育の充実
- ⑧ 学級指導や生徒会指導を通じての自治意識の向上
- ⑨ 連絡を密にして、共通理解のもと共通実践による生活指導

<進路指導>

- ① 3年間を見通した進路指導計画の確立と実践
- ② 進路指導計画のもとに一人一人が主体的に進路を選択できる能力の育成
- ③ キャリア教育を通じての生き方教育の推進
- ④ 情報の収集と共有
- ⑤ 情報活用スキルの向上

(2) 地域・家庭との連携

- ① 地域・保護者が学校とともに生徒の健全育成を図る好ましい関係の構築
- ② 保護者が来校しやすい学校の雰囲気づくり
- ③ 各種通信の発行、ホームページの充実など学校情報の発信
- ④ P T A活動、地域行事に対する積極的な教職員・生徒のかかわり
- ⑤ 保護者等の学校生活アンケートの実施と活用
- ⑥ 地域に愛される学校づくり
- ⑦ スクールサポート矢中との連携
- ⑧ 学校として「できること」「できないこと」の宣言
- ⑨ **家庭ですべきことと学校の役割との区別と明確化**
(学校はサービス業ではなく、子どもたちが社会生活を送れるよう、教育・指導する場である)
- ⑩ 家庭の理解と協力
- ⑪ 一人ひとりが見える（活動・活躍・成長など）通知表所見の作成（道徳評価・総合所見等）

(3) 服務規律の厳正

- ① 服務事故は絶対に起こさない。
- ② 教員室での会話を含めた教育公務員としてのふさわしい言動（大声・高笑い・生徒の悪口は厳禁）
- ③ 来校者、学校への問い合わせに対する丁寧、親切な対応（傾聴の姿勢・電話対応）
- ④ 会計処理の明確化（転出入生徒に対する注意）
- ⑤ 個人情報の管理の徹底

(4) 目指す学校像に対する成果指標

【向上心あふれる学校】

- ・家庭学習の定着を目指した取り組みを学年、教科ごとに行う。
- ・補習教室（ぐんぐん教室）を充実させ、遅進生徒等が意欲的に学ぶ機会を持たせる。必要な生徒が参加するための工夫とスクールサポートとの連携
- ・各教科で、生徒の活動や体験を重視した授業を展開し、学ぶ意欲を高め、言語活動の充実を図る。
- ・各種学習コンテストを実施し、基礎の定着を図り、達成感を体験させる。
- ・I C T機器を利用した授業の推進のため、研修への積極的な参加。

【安全で安心できる学校】

- ・家庭との連携・協力を密にし、信頼関係を築くとともに家庭生活の安定を図る。
- ・いじめ防止対策委員会を充実させ、SCを積極的に活用し、いじめ0を目指し、早期発見・早期解決に努める。
- ・不登校対策委員会を充実させ、SC・SSWを積極的に活用し、児童相談所・警察・子ども家庭支援センター・医療機関との連携を密にし、ケース会議を充実させ、不登校生徒（欠席30日以上）出現率を**6%以下**にする。
- ・新たな不登校生徒を出現させない対応を行う。（初期対応の重要性）
- ・特別な支援を要する生徒には、個別支援計画を6月までに作成すると同時に、特別支援教室や巡回指導員等との連携を密にして、有効的な個別指導を展開する。
- ・全校体制で組織的にあきらめない生活指導・予防的な生活指導を展開する。
- ・「ほう・れん・そう」の徹底
- ・各教室の整理整頓、美化活動や掲示教育を重視し、ごみのない学校として環境整備を推進する。

【規律と活気のある学校】

- ・チャイム着席の定着と授業規律の徹底を行う。（年間）
- ・毎朝、校門に立ち自ら積極的に挨拶や声掛けを行い、挨拶と笑顔のあふれる学校。（年間）
- ・全校生徒が、毎日の「朝読書」に集中し、一校一取組を実践する。月に一冊は生徒が読書することをめざす。
- ・生徒会活動や学級活動を活性化させ、生徒の手による学校での規律を徹底させながら、生徒の居場所づくりを推進し、生徒に成就感や達成感を味あわせる。（**生徒の主体性を育むためには教員の指導が大切であり、言いなりになることや任せっぱなしすることではない**）
- ・「見放さない」「切り捨てない」「決めつけない」指導を展開すると同時に生徒に寄り添った指導を行う。（この意味を十分理解した上での指導）

【誇れる学校】

- ・道徳授業や学校行事、地域ボランティアの体験から、他者を思いやる心を育て、内面の美しい生徒を育成する。
- ・生徒や保護者が相談したくなるような人間関係の構築
- ・学校公開や道徳授業公開を魅力的なものとする。
- ・学校便りと学年便りを充実させ、情報発信を確実に行う。
- ・学年だよりの保護者等の返信欄を通じて意見を収集し、たよりに掲載するとともに今後の教育活動に生かす。
- ・防災拠点としての充実と地域ぐるみの防災訓練の実施
- ・ホームページの更新と充実
- ・地域行事に積極的に参加させ、地域の学校という意識向上を図る。

(5) 支える教師像に対する成果指標

【生徒との時間を大切にしている教師】

- ・日頃から生徒や保護者とのコミュニケーションを大切にしているか。（**教員室においてPCと向かい合っている時間が長くないか**）
- ・その場限りの指導ではなく、卒業後や進級後などを見据えた指導を展開しているか。
- ・生徒の観察を怠らず、小さな変化も見逃していないか。
- ・生徒を信頼することは必要だが、どこまで信頼するかを線引きが個々に応じてできているか。
- ・生徒・保護者の立場に立って、ものごとを考えることができるか。（**迎合するわけではない**）
- ・生徒・保護者の話を最後まで誠意を持って、聞いているか。
- ・生徒に対して、注意や指導ばかりしていないか。
- ・生徒の良さを見つけ、小さなことでもほめたり、感謝したりしているか。（**褒めるだけが指導でない**）

【自らを磨くことのできる教師】

- ・生徒の活動に対して**何を指導し、どのように活動させるか理解しているか。**
- ・自らの誤りについて、生徒や保護者等に素直に謝っているか。(言い訳をしていないか)
- ・生徒の基礎学力の定着が不十分なことを生徒だけのせいにしていないか。
- ・生徒の学習意欲がないことや家庭学習が習慣化していないこと、生活指導上の問題行動を生徒や家庭だけのせいにしていないか。
- ・研修等に積極的に参加しているか。

【互いに高めあう教師】

- ・あらゆる場面・状況を想定して、最悪の事態を考えた計画を立てているか。
- ・あらゆる教育活動に対して、どのような力を生徒につけたいのか**目的意識を常にもって、計画・実践・指導しているか**
- ・指導の展開をマニュアル化しようとしていないか。(学年・個に応じた指導が存在する)
- ・行事には**目的があり、その達成のための手立てを考えて立案しているか。(行事を行うことが目的ではない)**
- ・公務員として法の下、職務を遂行していることを意識しているか。
- ・不適切な言動・行き過ぎた指導・体罰について理解しているか。
- ・教師としてのプロ意識をもっているか。
- ・ダメなものはダメという強さを持っているか。
- ・お友達集団になっていないか。(時には議論をすることも必要)